

6-2. スーパーボンドの臨床応用例

5. 前装冠リペア

臨床例5-1 破折した陶材焼付鑄造冠のリペア1



①ブリッジ支台歯の3の焼付陶材冠の一部が破折した。



②3の焼付陶材と金属冠の表層を削去する。



③印象を採り、作業模型上で補修用の金属焼付陶材部分を作製する。削去した3部分と作製した金属焼付陶材部分にそれぞれV-プライマーとポーセレンライナーM処理を行い、スーパーボンドで装着する。



④術後8年の唇側面観。



⑤術後8年。同舌側面観。

臨床例5-2 破折した陶材焼付鑄造冠のリペア2



①他院で装着した陶材焼付ブリッジの支台歯とポンティック部の陶材が破折している。



②ポンティック部は基底部の陶材を残し、支台歯部分は全ての陶材と金属部分の表層を削除する。



③レジン歯のシルクラウンを利用して、テンポラリーを作製する。



④模型上で完成した陶材焼付部分。



⑤リテンションのため舌側までメタルを延長している。メタル部分は修復マージン部より1mmほど短く仕上げ、マージン部はクリアー陶材のみでカラーレスのように仕上げ、レンズ効果を期待している。



⑤V-プライマーとポーセレンライナーMで処理後、スーパーボンドで装着。装着6年後の状態。